

—踊りの概要—

①時間：昼間に行う。1回約40分間

②人数：大鉦1人、中鉦1人、小鉦1人、太鼓9人

③服装：黒緋単衣、黒足袋、黒の手甲、草履

太鼓踊子は、昔は広袖の襦袢を着ていたが、今は白シャツズボンで代用している。

④装身具：鉦踊子は、まんじゅう笠に金銀箔の飾りをつけ、腰には金銀箔の造花の束をさして踊る。太鼓踊子は、前に太鼓を抱え、背に矢旗を負う。矢旗には五色の布を張り、五色の色紙を巻き、頂上に金銀色紙の造花を飾る。

⑤舞踊の形式：鉦打ちを先頭に一列で出てきて円形をつくり、鉦打ち3名を中心に、外側で太鼓踊子9名で囲み、鉦太鼓に合わせて歌い踊る。

⑥歌詞：(1) 実盛様の御所楽召らすが、稲虫どもこそ音をすくめす。

実盛様のおみや見れば、黄金の鞍に黄のあぶみ 黄金のくつわが千くつわ。

(2) 実盛様に神よりかけて、びんぶし神か、おてぶし神か、
外ろくちが、みのりがましや。

(3) けさの寒さにいささ山、ささ山越えて、露で羽織の裾ぬらす。
羽織の羽織の露で、羽織の裾ぬらす。

・参考文献

高城町史編集委員会『高城町史』平成元年2月